

JOFI OSAKA

ジョフィおおさか

1998年(平成10年)7月20日

発行者/大阪府釣りインストラクター連絡機構・広報部会
大阪府中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル3階34号 大阪府釣り団体協議会・本部内

VOL.2



大阪府釣りインストラクター研修会のお知らせ

8月29日午後1時から5時まで、大阪中央会館(大阪市中央区島之内2～12・堺筋周防町交差点を東へ約150m南側)で開きます。研修内容は
①大阪府下の河川の自然とそこに生息する魚類の現状。とくに淀川わんどの環境と天然記念物イタセンバラについて。講師・大阪府

立淡水魚試験場 宮下主任研究員。
②全国各地の釣りインストラクター組織の活動およびフィッシングマスター制度の報告。
③ブロック別連絡会となっています。万障お繰り合わせのうえ、多数の出席を期待します。

2月1日守口門真商工会館で実施。

⑩枚方市民釣り教室・6月、8月、11月の3回開催。

〈2号議案〉平成9年度収支決算報告

〈3号議案〉同収支決算監査報告

以上3件を満場一致により承認した。

〈4号議案〉平成10年度事業計画案

①榎原フィッシングスクール・5月23日から10月18日の期間に7回開講。(担当・中野恵司理事)。

②枚方市民釣り教室・6月14日から11月1日までに4回開講。(担当・中出隆文理事)。

③八幡市フィッシングスクール・8月1、2日の両日開講。(担当・吉川幾久雄理事)。

④泉佐野市民釣り教室・8月から9月にかけて4回開講。担当・北田啓明理事。

⑤ボーイスカウト大阪連盟釣り章講習会・10月24、25の両日開催。(担当・柴崎隆理理事)。

⑥府下各自治体への釣り教室開講の働きかけ

⑦普通救命士講習会・8月23日13時から16時。於守口門真消防組合。参加予定40名。

⑧大阪湾稚魚放流事業・8月20日午前9時から。堺新港で開催。荒天の場合は8月27日とする。

⑨大阪湾ファミリー釣り大会および全国一斉釣り場清掃デー・10月25日。場所は検討中。

⑩大阪府釣りインストラクター懇親会・1月19日、大阪ヒルトンホテルで開催。

⑪淀川、大和川クリーンアップキャンペーン・3月7日淀川、7月19日大和川。

⑫釣りインストラクター研修会・8月29日午後1時から5時。大阪中央会館で開催。

〈5号議案〉平成10年度収支予算案

以上2議案を満場一致で決議した。閉会あいさつ来田仁成理事。

平成10年度JOFI大阪の総会を開催

5月22日、午後6時30分から、大阪市立中央会館で、平成10年度の大阪府釣りインストラクター連絡機構(JOFIおおさか)総会が開かれた。

木村章理事の司会により、新竹柳太郎監事の開会のことばに続き、吉川幾久雄会長より、釣りインストラクターの現状と、その目標とするもの等のあいさつ、来賓の大阪府農林水産課のあいさつのち、議長に東野英治理事を選出した。

議事内容は次の通り。

〈1号議案〉平成9年度事業報告

①榎原フィッシングスクール・5月24日から10月19日までの間に7回にわたり開催。榎原市在住インストラクターに加え、他地区からも応援を求めて開催した。

②ボーイスカウト大阪連盟釣り章講習会・6月15日から10月5日までの期間に4回にわたり実施した。

③第1回普通救命士講習会・8月3日、10

日の2回実施。受講者数80名。

④泉佐野市民釣り教室・8月17日から9月7日までの期間に4回にわたり開講した。

⑤大阪湾稚魚放流事業への参加・8月21日、大阪府釣り団体協議会、日本釣振興会大阪府支部主催によるチヌ、サンバソウの放流に20名が参加した。

⑥平成9年度釣りインストラクター養成講習会・10月18、19の両日、JOFI大阪が運営した。

⑦大阪湾ファミリー釣り大会および全国一斉釣り場清掃デー・10月26日、大阪南港海釣り園において日釣振大阪府支部主催の大会運営および釣り指導。同時に全国一斉釣り場清掃デーの催しとして、ゴミ袋の配布ならびに釣り場の清掃活動を実施。

⑧大阪府釣りインストラクター懇親会・1月20日大阪ヒルトンホテルで開催。来賓として、日釣振大阪府支部より広瀬正巳副支部長ほか報道関係など多数。

⑨平成9年度釣りインストラクター資格試験・

『釣り教室の開設をすすめよう』 大阪府釣りインストラクター 連絡機構 会長 吉川幾久雄



さる5月22日に開かれた「JOFIおおさか」の年次総会において、平成10年度の事業について多数の積極的な意見が展開されました。事業の主たるものはクリーンアップ行事への参加、釣り教室の開設と参加です。

すでに開設されている柏原市、泉佐野市、枚方市、ボーイスカウト大阪連盟などは着々と実績をあげておられ、継続事業として根付いています。これら地方自治体における釣り教室には先達の方々が資材の準備から、教材の作成調達まで、時間と労力をかけて得ていたものを、こころよく開放、提供していただき、新設釣り教室の普及に積極的に協力してこられることに敬意を表します。

釣りインストラクターの本領を発揮できる釣り教室の普及は重要項目として事業部会でも、総会でも熱心に検討され、方向づけが約束されました。

筆者も住み慣れた八幡市で釣り教室を開設する企画に参画し昨春秋釣り好きの友人と教育委員会の生涯教育課に働きかけ企画書を出し、他市の状況を話して

熱心に勧めた結果、新年度の事業として開設が決まり、先達釣り教室講師、釣りインストラクターの皆さんの協力を得て近日開講のはこびとなりました。

自治体が主催する行事は1年前から手続きをすすめる必要があります。釣りインストラクターの皆さんが住んでおられる地域や職域でぜひ開講できるようおすすめします。

次代を背負う青少年に釣りを通じて自然を愛し、自然に遊びまなぶことを伝えるのがわたしたちの使命であると思います。行政の提唱する生涯学習の一環として釣り人の地位を確保し長く続けることにより国民的健全なリレーションとして公が認め、魚族の増殖、釣り場の確保と助成が行政の任務だとして位置付けさせるための一助ともなれば幸いです。

大阪府釣りインストラクター 連絡機構役員

【理事会】(理事)

吉川幾久雄・中出隆文・石井克宗・松本光博・吉田天三・柴崎隆・中野恵司・山根啓央・田畑勝皓・東野英治・柴田稔広・北田敬明・佐藤功・菊原俊明・小関誠吾・森脇操・戸波俊二・西村星一・宮川明・橋本正信・来田仁成・森田邦征・木村章・前田孝一・小林成芳・越田光・安倍健太郎・若林昇・高淵諒・前田米造・綿井良隆・田中行隆・宮本一夫

【監事会】(監事)

新竹柳太郎・縄稚久和・見学治・末友良治・北村龍雄・野崎弥広・松尾敏夫

【会長】吉川幾久雄

【事務局】

【事務局長】木村章

【委員】菊原俊明・高淵諒・山根啓央・小林成芳・田畑勝皓

【会計部会】

【委員長】戸波俊二

【委員】越田光・森脇操

【事業部会】

【委員長】中野恵司

【委員】東野英治・小関誠吾・田中行隆・橋本正信・前田孝一・柴田稔広・吉田天三・宮川明・安倍健太郎・柴崎隆・綿井良隆

【広報部会】

【委員長】来田仁成

【委員】北田敬明・中出隆文・佐藤功・森田邦征・藤本滋子

【地区委員会】

●北部地区

【委員長】新竹柳太郎

【委員】中出隆文・前田米造

●中部地区

【委員長】中野恵司

【委員】柴崎隆・田畑勝皓

●南部地区

【委員長】北田敬明

【委員】高淵諒・若林昇

(順不同)

ファミリー釣り大会は10月25日に泉佐野で

日本釣振興会大阪支部主催、大阪府釣り団体協議会協賛・運営によって毎年開催されている「大阪府民ファミリー釣り大会」は10月25日に泉佐野食品コンビナート一帯で開かれることがまりました。



過去2年続けて大阪南港海釣り園で開催されましたが、釣りものが単調で収容人員も少ないことから、泉佐野に変更がまりました。当日は朝6時受付開始、審査は10時から11時。参加費無料。対象は長もの、毒魚を除く全魚種の異種2匹長寸です。

運営、指導に出席していただけの方は、本部まで登録のうえ、朝5時半に集合してください。参加には、あらかじめ登録の必要はありません。

普通救命士講習会 好評につき今年も

普通救命士資格取得のための講習会を昨年に続き実施します。8月23日13時から16時まで、守口門真消防組合(守口市殿島町7・守口門真商工会館南側TEL06・906・1122)で、緊急時の応急手当や人工呼吸法などの実地講習を受け、普通救命士の資格を取得することができます。募集人員は40名となっています。早めにJOFI大阪本部まで申し込んでください。

平成10年度釣りインストラクター・フィッシングマスター講習会の日程きまる

全日本釣り団体協議会主催、農林水産省後援により毎年行われる、釣りインストラクター講習会・資格試験及びフィッシングマスター講習会・資格試験の平成10年度分開催地と日程が決定した。

〈釣りインストラクター講習会〉

- ☆東京=10月24、25日(東京水産大学・東京都港区港南)
- ☆愛知=12月12、13日(中京大学名古屋キャンパス・名古屋市昭和区八事本町)
- ☆広島=10月31、11月1日(RCC文化センター・広島市中区橋本町)

〈釣りインストラクター資格試験〉

- ☆平成11年1月10日
上記3会場で全国一斉に行う。

〈フィッシングマスター講習会と資格試験〉

- ☆12月12、13日
東京水産大学で開催、13日午後から資格試験を行う。

新任釣りインストラクターの皆さんへ

平成9年度に釣りインストラクター試験に合格された方々に大阪府釣りインストラクター連絡機構(JOFI大阪)への入会をおすすめします。連絡機構は、大阪府下で活躍されるインストラクターの皆さんの横の連絡を密にするための組織で、運営、連絡等の円滑をはかるため、次の3つの地域に分かれています。Aブロック・大阪北部地区(淀川流域以北の地域)。Bブロック・大阪中部地区(大阪市および周辺東部の地域)。Cブロック・大阪南部地区(大和川流域以南の地域)。入会された方は、居住地あるいは勤務地、クラブ所在地などにより、希望するブロックに所属して、種々の

活動をしていただきます。年会費は3千円で、通信費その他の連絡活動経費等に充当します。入会された方には、年2回の会報および大阪府独自の活動の案内を送付することになっています。

入会方法は連絡機構事務局TEL 06・245・4800まで。

淀川“わんど”クリーン 大作戦に参加を

淀川“わんど”周辺の清掃と水生生物調査を行う催しで、今年度から釣りインストラクターも参加することになりました。7月19日(日)午前10時から正午まで、淀川城北“わんど”地区で実施します。主催は「L O V E A遊一淀川」実行委員会、建設省近畿地方建設局淀川工事事務所ほか。

各地で釣りインストラクター活動の場続々

かしわらフィッシングスクール

昨年(2014年)の第1回、第2回に続き第3回入門コースを5月23日、6月13日、6月27日の3日間にわたり、柏原市役所女性センターに於いて開きました。対象としたのは、小学4年生から中学3年生までの少年少女30名で、この催しのために特別に八木喜祥さんに作っていただいたテキストをもとにして、釣りの知識や魚の知識などを勉強しました。

続いて第4回かしわらフィッシングスクールを8月22日、9月12日、9月26日の3日間にわたり、同じく柏原市役所女性センターで開きます。講師は、釣りインストラクターで柏原市在住の森脇操、小松博幸、宇須良晃、中野恵司が担当する予定です。

また、第3回、第4回の参加者を対象に、10月18日に千早川マス釣り場でニジマス釣りの実習を計画しており、保護者同伴で無料で参加できることになっています。

柏原市教育委員会社会教育課の積極的な協力を得て、今後も続けて行いたいと考えています。

(中部地区・中野恵司)

枚方市民・釣りのつどい好評

昨年(2014年)から恒例となった「枚方・交野市民釣りのつどい」が、今年も6月、8月、11月に延べ8日間にわたって枚方渚処理場安定池(大阪府枚

方市淀川左岸流域下水施設)で行われます。この行事にJOFI大阪北部地区所属の中出、荒木、森本、野田が指導スタッフとして加わり、同時に地元枚方渚釣友会の協力を得て、釣りマナーや実技の「釣り教室」を開催します。

昨年は、親子連れ延べ2500人の人達が釣りを楽しみ、枚方市の行事として定着するようになりましたが、今年からは、隣接する交野市の参加が決まり、大変な混雑が予想され、現在もその対応に追われています。

今後も、釣りを通じて地域活動に専念するとともに、昨年同様、日本釣振興会より寄贈されたゴミ袋の配布を行い、環境保全の啓蒙に努めるよう頑張っています。

(北部地区・中出隆文)

ボーイスカウト釣り章講習会から



ボーイスカウト技能章の中に、釣り章というのがありましたが、従来から大阪では、釣り章の講習会や考

査会を開く人がなく、今年度、初めて釣りインストラクターとの連携で開催のはこびとなりました。

ボーイスカウトの技能章とは、野外活動の様々な分野のなかで、正しい知識と一定水準以上の技能を持つ者に交付されるものです。今年度は、6月15日に講習会、7月13日に審査会、9月28日に講習会、10月5日に審査会と、2回にわたって開催、約100名の参加者があり、その中から80名の合格者を出すことができました。

この審査会が、釣りインストラクターの指導により行われるようになったきっかけは、JOFI大阪所属の釣りインストラクター柴崎隆がボーイスカウト大阪連盟浪速地区進歩委員を兼務していたことから始まりました。指導に当たった釣りインストラクターは、見学治、来田仁成、奥村明信、東野英治、小林成芳、山根啓央、藤本滋子、高淵諒、辻哲男、前田考一、橋本正信、野口治男の各氏でした。

ボーイスカウトの目的は、野外活動などを通じてよき社会人となること、幸福な人生を送ることとされています。ボーイスカウトたちが正しい釣りのマナーやルールを守り、楽しい釣り人生が送れることを期待しています。

なお、ボーイスカウト大阪連盟より、JOFI大阪吉川会長あてに感謝状が贈呈されました。(中部地区・柴崎隆)

泉佐野市民「海釣り入門」講座

「これから海釣りを始めようと考えてる皆さんに、釣りのたのしみを分かりやすく指導します。

自然と親しみながら環境の大切さを学び、参加者の交流をはかりましょう。」

の呼びかけで、泉佐野市生涯学習センターが日本釣り振興会大阪府支部の協賛で行い、本年度で四年目を迎えようとしています。

昨平成九年度の場合、八才から六十四才までの老若男女の方々が受講され、六十才代のご夫婦三組、小学生の親子三組、と家族で参加された方が多く、和気あいあい熱心に、8月17日から9月7日の和歌の浦での実習まで、毎日曜4回の講座を修了されました。

この講座指導には、南部地区担当インストラクター北田敬明さんら6名が当たりました。

(南部地区・高淵 諒)

大阪府民ファミリー釣り大会

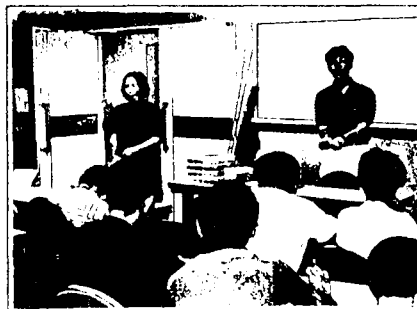


日釣振大阪支部主催、大阪府釣り協後援で10月26日に大阪南港海釣り園で開かれた、大阪湾ファミリー釣り大会の運営協力に、つ

りインストラクター30人が出動。参加した家族連れの釣りファンたちに、懇切に釣り技術の指導を行った。今年も協力を期待したい。

手話のボランティアも加わり バスフィッシング教室開催に協力

南部地区委員会では5月24日三週間にわたって泉佐野市生涯学習センター主催の「小、中、高校生バスフィッシング教室」に講師を派遣、指導に当たっています。



同センターでは毎年夏休み期間中、南部地区委員会が協力して「市民海釣り教室」を開催していますが好評のため今年からさらにバスフィッシング教室の開催にも協力することになり、今回がその第一回目。

指導には南部地区所属で内水面の伊藤豪浩さんら五人の釣りインストラクターが当たっていますが、琵琶湖をホームグラウンドに海外のバス釣りに精通したプロ級のインストラクターもあり、これらの経験の深い講義に受講者は「凄い!」「楽しい!」と感嘆の声も聞かれ、休憩時間も惜しんで熱心に耳を傾けるなど熱のこもった教室が開催されています。

また、今回、耳の不自由な子供たち三人を受け入れることにし、このため地元の婦人二人が手話のボランティアを買ってでてくれるなど協力体制も整い、今後、身体生涯者への新たな指導が試みられている教室となっています。

そのほか、同教室の全日程の講座内容をビデオに収録。同センターに常備して希望市民に鑑賞して貰うことにしています。

なお、南部地区委員会では、各種釣り教室開催に当たっての指導者を養成するため、指導体験参加者を募ります。希望者は南部地区委員会へ参加登録してくれば、開催時に連絡しますので、奮って参加して下さい。

(南部地区委員長・北田敬明
TEL.0722-97-2962)

(写真は、手話も加わるバスフィッシング教室で講義にあたる南部地区メンバー)

チヌ・サンバソウ元気に海へ 大阪湾に2万5千匹放流

16年目を迎えた海への稚魚放流は全国でも大阪が最初。大阪府釣り協と日釣振、それに釣り船組合が協力して淀川河口から岸和田までの区間に、チヌとサンバソウを放流した。釣りインストラクターからも20人が参加。残暑の中、稚魚のバケツリレーに汗を流した。

釣り人の手で稚魚の放流をとフィッシングショーで募った浄財は有意義に海に帰っていった。

にぎやかに懇親会 大阪ヒルトンに68名が気炎あげる



1月20日夜6時半から、大阪ヒルトンホテルでJOFI大阪の第2回懇親会が開かれた。

吉川会長の檄にはじまり、来賓

の日釣振大阪広瀬副支部長、岳洋社の松井会長はじめ報道各社代表から激励のあいさつが続々。

日ごろ顔を合わせる機会がすくないのでと自己紹介がはじまったがそこは釣り人らしく、

釣りの未来へと目を向けたユニークな気炎が多い。最後に釣り具などの抽選会が行われ賑やかに幕を閉じた。

インストラクターに 望むこと

大阪で釣りインストラクター組織ができて2年目。まだはじまったばかりです。そこで、インストラクターのみなさんには、各自で独自の企画をたて、活動を開始してほしいと思います。地方自治体や、教育委員会などに積極的に働きかけ、活動の機会を作っていけば、さらにこの制度が生かされるはず。指示を待つという姿勢ではなく、前向きに動きはじめてほしいのです。具体案ができれば、全面的にバックアップします。

大いに役立てて賣りたい!

釣りインストラクターの資格

(理事・広報部編集委員長 北田敬明)

資格を取得したのに何の連絡もなく一体どうなっているのか!

そんな声が何度も聞かれ、昨年発足したJOFI大阪では役員会を開催する度にこの対策問題を巡って論議を交わしてきました。

このため、緊急策として、当面乏しい予算をやりくりして会報を発行するなど、インストラクターの皆さんに何とか情報を提供しようと努力してきました。

勿論、これだけでは万全で無い事は重々承知の事で、今後さらに連絡や情報提供の強化策を講じることが重要である事はいがめません。

しかし、ここに問題は、インストラ

クター資格を取得された皆さんの積極的な反応がないことも事実です。

東京の本部に依存することなく、関西の組織で活発な活動を開始しようと、昨年JOFI大阪を発足させ設立総会を開催しましたが、欠席の方も多く、大勢の意見や批評も聞かせて頂くことも出来なかった訳です。

また、先に開催された今年度の総会でも同様、新公認者の不参加が多数を占めました。

しかし総会に出席された方は、多少なりとも組織の現状を理解され、早速組織の一員として加わって頂き、在住地の地区組織に加わり各市

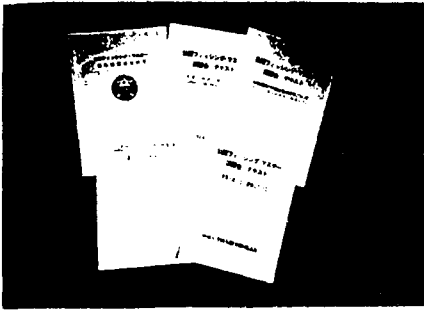
の釣り教室や各種行事の指導活動に参加しておられる方も増えつつあります。

発足まもなく、言わば発展途上のJOFI大阪ですので、まだ、事務的な不手際もままあることと思、その点、本部関係者も大いに反省していることですが、何よりも必要なのは皆さんの積極的なご協力なくして目的を達成することは出来ません。

会本部には事務担当者も常駐しておりますので、これを機に積極的なご意見や批判をお聞かせ願うとともに、会活動にも参加して頂き、大いにその資格を役立てて頂きたいと念願致す次第です。

公認フィッシングマスター資格制度について

公認フィッシングマスター（上級釣リインストラクター）制度は、平成9年度から新設されたもので、農林水産省から助成金を受けています。



フィッシングマスターは、平成3年度から発足した釣リインストラクター制度をさらに推進し、より充実した状態で機能させると同時に、水産資源に対する世界的な動向を把握し、今後の活動に資するため、現在の公認釣リインストラクターの中から指導的役割を果たすべきものを推奨し、より高度な研修を経たのち、公認フィッシングマスターの資格を授与し、今後の釣リインストラクター活動において、指導的な役割を果たすというものです。

この講習会や資格試験を受けるには、公認釣リインストラクターとして3年以上の経験を持ち、その間にインストラクター活動に対して貢献（活動への参加、報告書の提出など）のあった人にかぎられます。公認釣リインストラクターが果たすべき役割を熟知し、活動の指針を研鑽し、役割を果たすにあたって必要とされ

る知識を取得するとともに、釣リインストラクター連絡機構の運営や地方自治体、関係諸機関などとの折衝に必要な基本知識を養うことが目標となっています。資格試験に合格した者は、専門種目ごとに部会に登録、所属し、釣リインストラクター機構の運営に携わることになります。

専門種目は、第1種・技術部会（伝統技術の保存発展に携わる）。第2種・運営部会（環境保全、漁業者との調整、組織の維持等の実務を推進する）。第3種・指導部会（指導技術を研究習得し、公認釣リインストラクターの指導と教育に当たる）の部会に分かれており、第2種と第3種は重複して登録することができます。

平成10年度のフィッシングマスター講習会は12月12、13日の二日間にわたり東京水産大学で開かれ、13日の午後から試験が実施される予定です。受講、受験費用は2万円。登録料は1万5千円となっています。

平成9年度のフィッシングマスターの講習会の内容は、

- ①水産資源の特徴とその管理について（東京水産大学 平山信夫教授）。
- ②環境保全・生態系保持に関する最近の情報と釣リとの関係等について（東京水産大学 兼廣晴之教授）。
- ③世界の漁業法規について（財団法人海洋生物環境研究所 石川賢広理事長）。
- ④漁業と釣リとの調整について（関西学院大学 大島襄二名誉教授）。
- ⑤釣リ指導の具体的な手法について（全日本釣リ団体協議会 来田仁成理事）。

講習第2日目午後からは、論文の提出と筆記試験が行われ、合格者は47名でした。

合格者はそれぞれの所属府県で釣リインストラクター連絡機構の整備等の任務にとりかかっています。

第10回大阪府民釣リ大会に応募を 大阪湾、大阪府下の川や池で釣れた魚の魚拓を募ります

平成10年1月1日から12月31日の間に釣れた魚の魚拓を11年1月15日の締め切りまでに大阪府釣リ団体協議会本部（〒542大阪府中央区東心斎橋1-9-21）ま

で提出して下さい。表彰は規定に基づいた審査を経て平成11年フィッシング大阪の会場で行います。参加費は無料です。

大阪湾の潮流・ここ数年の暖水舌現象について

大阪府水産試験場 菅沼 末雄 技師 [平成9年度JOFIおおさか研修会から]

潮流と一口に言うが、3種に分類することができる。①は、風によって起きる潮の流れで、海面近くの海水のみを移動させる。この結果、風上に位置する海岸では、海底からの湧昇流を発生させることがある。②は、潮汐によって起きる潮流で、潮の干満により定期的に発生する。③は、海流によって起きる潮の流れで、大阪湾の場合黒潮の分枝流が北上する角度と強さによって、その影響に差が生じる。

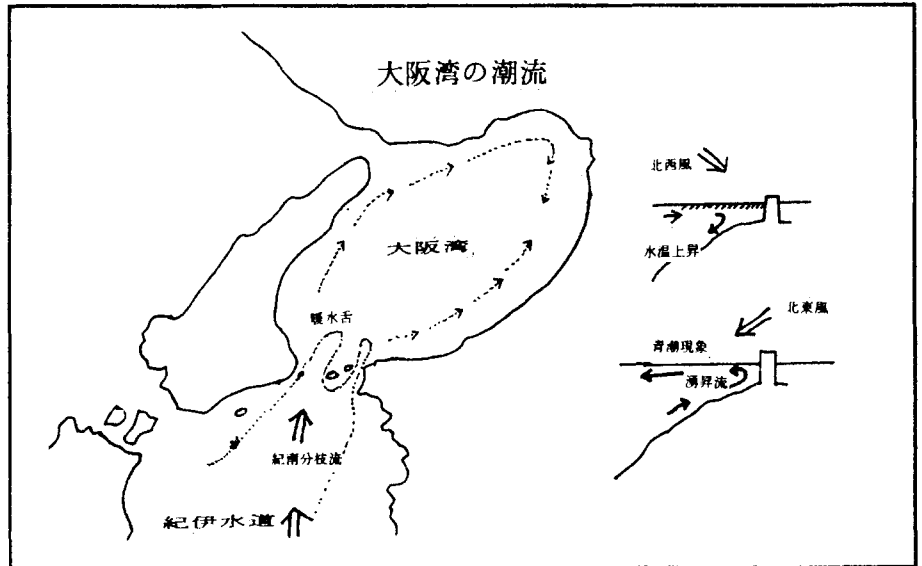
平成7年から9年に至るまで(10年も同様である)冬場に異常高水温が続いた。

異常高水温は、紀伊水道を北上する黒潮の分枝流が、さらに紀淡海峽から湾内にまで流入することで起きたものである。紀淡海峽から図のように舌状に北上するので、これを暖水舌と呼ぶことにした。

暖水舌が断続的に見られるのは、紀南分枝流の勢力が強かったこととともに、暖冬で北西の季節風が少なかったことにも原因があると思われる。北西風の勢力が強いと、瀬戸内海の海水が東へ押され、さらに紀伊水道を南下して、紀南分枝流の頭を押さえ込む形となる。反対に、弱いときは、紀南分枝流の勢いが強くなり、暖水舌が発生しやすい。

この結果、大阪湾には、従来見られなかった暖海性の生き物が見受けられた。マンボウ、シャチ、カジキマグロなどが代表的なもので、スルメイカなどもこの暖水舌に乗って大阪湾に入り込んできたものである。

このように、高水温が続くことで、大阪湾の生態系にはかなりの変化が見受けられたが、一方で、夏場北東の風がしば



しば吹くことで、大阪湾奥部に海底からの溶存酸素量の少ない青潮が湧昇流となって埋立地の周辺を支配し、これによって、夏場の水温上昇が妨げられた。湧昇流は、いわゆる青潮現象となり、沿岸に集まるはずの回遊魚を沖合に遠ざけ、反定着魚は活性を失うこととなった。つまり、釣果にムラが多いという現象を生んだ。

大阪湾の生物の変化については、まだ調査中なので、はっきりとした結論は出せないが、釣りを通じて、釣り人の皆さんにも、生態系の変化に興味深く見守っていただきたい。

[解説]

平成10年の場合、暖水舌の断続的な流入は、これまでの3年間に比べ、最も著しいものがある。大阪湾の最低水温は13度程度にとどまった。このため、アジ、サバの乗っ込み現象は、開始、終了ともに判然としなかったが、稚魚の数はこれまでに見えない多さを示し、小アジに関しては当たり年になっている。チヌ、セイゴに関

しては、大阪湾内での稚魚数が格段に増加してきており、現在でも埋立地のテトラ周りには、2、3年もののチヌが多数見られる。また、内湾でも、2、3年もののセイゴが多いことが確認されている。

スルメイカに関しては、昨年同様、武庫川一文字周辺に接岸したが、エサとなるイワシの生育が遅れたためか、型はやや小ぶりであった。時期を同じくして、短期間ながら甲イカも接岸、また、一昨年ブームを呼んだアオリイカの数も多いことが確認されている。タチウオも同様で、湾内での繁殖が多いが、エサ不足のため生育が遅れ、まだ50%に満たないものが多い。これから夏場、大陸高気圧と太平洋高気圧の勢力分布がどのようになるかが不明だが、大陸高気圧が強い場合は青潮、太平洋高気圧が強い場合には異常高水温と、どちらかの極端な形になることが予想されるので、天候の推移をよく見定め、釣況と密接なつながりを確認して行きたい。